

株式会社 日新メンテナンス



株式会社 日新メンテナンス



プラントエンジニアリングと メンテナンスで操業を支える

代表取締役 立川 和彦 氏

1976(昭和51)年、滋賀県出身。金沢大学を卒業後、企業でビジネスの経験を積み、2012(平成24)年に日新メンテナンスへ入社。その後、調達、人事、副社長などを経て、2020(令和2)年に代表取締役就任。「言行一致」を大切にすることを心がけている。

所在地	大阪府大阪市中央区南船場4-12-12 ニッセイ心斎橋ウエスト6F
設立	1979(昭和54)年8月
従業員数	144名
売上高	58億3,875万円[2024(令和6)年5月期]
事業内容	電気・計装設備の総合メンテナンスおよびエンジニアリング、パネル制作および電気・計装工事の施工管理、電気計装の機器販売

URL <http://www.nichime.co.jp/>



電気の力が欠かせない工場設備に 命を吹き込む仕事

日新メンテナンスの事業は、工場内での電気設備・制御設備の設計・施工・メンテナンスをトータルで担うことです。現代の工場は、電気の力ですべてが動いているといっても過言ではなく、私たちの仕事は、それらの設備に命を吹き込む仕事といえます。

創業以来、メンテナンスで豊富な実績を培い独自の技術を育んできた当社。メンテナンスを基盤として、設備の配置や配線の設計、制御プログラミング、機械や部品の調達、そして施工といったプラントエンジニアリングの領域まで手がけるようになりました。

現在は、バブル期に建てられた工場が一斉に老朽化し、建て替えられる時期にあたるため、お客さまから依頼を受けて、エンジニアリングから操業後のメンテナンスまでをトータルで携わることが多くあります。このトータルで請け負うメリットには、メンテナンスを考えた効率のよい設計ができることがあります。「工場が完成したら仕事は終わり」ではなく、完成後も工場に常駐し、日々のメンテナンスやお客さまの業務の変化に合わせた開発・改造に対応しながら、工場の途切れることのない操業を支えているのです。

実は、当社のようにトータルで請け負える会社は、珍しい存在です。電気設備ひとつをとっても、設計、制御、施工、弱電、強電などさまざまな分野があります。それぞれのスペシャリストを一つの会社に在籍させるには、安定的な業務量や規模が求められるため難しいのです。当社では、各分野のスペシャリストが集まってチームを組む、日本各地の工場ですべてにあたっています。

製造業の最先端を行く工場で 仕事を通じて新しい技術を修得

当社のお客さまは、大手化学メーカーなど大企業がほとんど。近年は各社ともサステナビリティを意識したもののづくりを実現されており、工場設備についても



新しいテクノロジーを駆使した二酸化炭素の排出を抑えた省電力の設備や、また、人手不足に対応するため省人化に寄与する設備などが求められています。

仕事を通じて、そうした最先端の設備にじかにふれながら新しい技術を吸収できるのは、当社で働く魅力のひとつ。お客さまが製造されているものも、テレビやスマホなどにかかわる時代の最先端が多く、世の中のトレンドに結びつく製品の製造を自分たちの仕事で支えていることも、やりがいでありおもしろさといえます。

当社としても、常に情報をブラッシュアップし、新しい知識や技術を取り入れることにより、環境にも産業にも貢献していきたいと考えています。

伸びる秘訣は素直であること 多くのひととの交流を学びの機会に

私たちの仕事で成長に必要なのは、経験が8割、理論が2割だと私は思います。その2割の理論に磨きをかけるため、資格の取得を推奨しています。従業員の多くが、難関資格といわれる第三種電気主任技術者試験をはじめ、電気工事施行管理技士、電気工事士など複数の資格を保持しています。新入社員も先輩から勉強を教わったり、勤務する現場での経験が活かしたりできるため、資格を取得しやすい環境といえます。資格勉強により知識が身につくと、それだけ視点の数が増えて視野が広がり、これまで見えていなかったことも見えるようになると思います。

また、入社後に伸びる秘訣は素直であること。これから社会に出る方は、ぜひ素直であることを意識して、社内の仲間やお客さまに接してほしいと思います。素直な人は、教えたことを全部吸収するので、教える側も教えがいがあり、多くの人からかわいがられ、学ぶチャンスに恵まれます。

就職活動の際には、実際にその会社へ訪れて雰囲気を感じてみるのがおすすめです。直感は意外と当たるものだと思いますので、自分の感覚も大切に会社選びをしてみてください。

